

## 平成24年度第2回桑名市入札監視委員会議事録

**日 時** 平成24年11月22日（木） 10：00 ～ 11：08

**場 所** 桑名市役所3階第2会議室

**出席者** 桑名市入札監視委員会委員（4名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

赤木 邦男

佐藤 久善

事務局（4名）

城田 直毅（総務部長）

加藤周太郎（契約監理課 主幹）

伊藤 隆光（ ” 課長補佐兼契約係長）

服部 博美（ ” 契約係）

発注担当課（3名）

内山 勝博（土木課 課長）

清水 高幸（ ” 管理係長）

小林 清巳（建築住宅課 課長）

## 事 項

### 1 挨拶（開会）

#### 【事務局】

お待たせいたしました。それでは、定刻となりましたので、開催させていただきたいと思います。

本日は、ご多忙の中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本委員会は今年度より公開としております。傍聴希望者より傍聴の要求が出ておりますので、許可してよろしいでしょうか。

#### 【委員長】

どうぞ。

#### 【事務局】

本委員会での写真、映像については、頭出し部分に限らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、平成24年度第2回桑名市入札監視委員会を始めさせていただきます。

なお、本委員会は入札監視委員会条例第5条の規定を満たし、有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。

最初に、総務部長より一言ご挨拶を申し上げます。

#### 【事務局】

それでは、改めましておはようございます。

本日は、第2回の桑名市入札監視委員会の開催をお願いいたしましたところ、委員の皆様には何かとご多用の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本日も、お手元の事項書に基づき、

ご審議をお願いすることといたしておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本市の今年度の入札制度の見直しでございますが、今回の抽出事案にもありますように、低入札価格調査制度については、価格面における入札参加者の企業努力が入札に反映されるよう、本年6月1日から試行的に導入をいたしております。今後も低入札価格調査制度の効果の検証を進めるなど、本市の入札制度が公平で透明性、競争性が発揮される制度となるよう、引き続き努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事につきまして、改めてご審議いただきますようお願いを申し上げ、ご挨拶にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

では、開会に先立ちまして、東川委員長よりご挨拶をお願いいたします。

【委員長】

本日はどうもありがとうございました。不正な入札を監視していくということは、この委員会だけではなく、庁内の情報管理の問題ですとか、そもそも入札に参加される方や職員の意識の問題が大きいですが、その中でこの委員会には主に手続等の面から公平な入札を行っていくという上で重要な役割を果たしております。本日も緊張感を持ってやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、早速審議に入っていただきます。

議事の進行につきましては、入札監視委員会条例第4条の規定に基づき委員長にお願いいたします。

## 2 議 事

### (1) 入札及び契約手続きの運用状況について

- ① 指名停止の状況
- ② 談合情報の状況
- ③ 入札及び契約の状況

【委員長】

それでは、事項書に従いまして議事を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。

最初に、事項書（1）の入札及び契約手続きの運用状況につきまして、事務局のほうから報告をお願いいたします。

【事務局】

それでは、事務局から入札及び契約手続の運用状況についてご説明させていただきます。失礼ですが座って説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初の指名停止の状況でございますが、お手持ちの資料1ページをご覧ください。

本審議対象期間であります、本年4月から8月までの間に5件の指名停止措置を講じています。その中で、建設業法違反及び不正又は不誠実な行為といたしまして、1件ずつ説明させていただきたいと思っております。

まず、建設業法違反ですが、指名停止の理由は、株式会社トーエネックは資格要件を満たさない者を営業所の専任技術者として配置していた。このことが建設業法第15条第2号に違反し、同法第28条第1項本文に該当すると認められる。また、監理技術者証の携帯が必要とされる工事において、資格要件を満たさない者を専任の監理技術者として配置していた。このことが建設業法第28条第1項第2号に該当すると認められる。上記のことから、平成24年5月23日に中部地方整備局長から監督処分

(指示処分)を受けたというものでございます。この内容を桑名市の指名停止基準に照らし合わせたところ、建設業法違反に該当するというので、トーエネック桑名営業所及び三重支店に対しまして1カ月の指名停止措置を講じたところでございます。

続きまして、不正又は不誠実な行為ということで指名停止措置を講じています。理由は、メスキュード中央株式会社は、平成24年6月15日、法人税法違反、脱税の容疑で同社の社長が逮捕された。このことが桑名市指名停止基準の不正又は不誠実な行為に該当するとして、メスキュード中央株式会社に対しまして4カ月の指名停止措置を講じたところでございます。

その他の3件はご覧のとおりとなっております。

続きまして、2番の談合情報の状況でございますが、本審議対象期間であります本年4月から8月におきましては特にございませんでした。

最後の3番、入札及び契約の状況につきましては、資料の2ページから4ページのとおりとなっております。

事務局からは以上でございます。どうぞご審議よろしくをお願いいたします。

【委員長】

それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見等はございませんでしょうか。

【委員】

特になし。

## (2) 抽出事案の審議について

### 抽出事案1 蛸塚益生線道路整備工事（橋梁上部工）

【委員長】

特になければ、次に事項書の(2)抽出議案の審議に移りたいと思います。

審議に先立ちまして、この5件の案件について説明を得るため、入札監視委員会条例第6条の規定に基づき、関係者の出席を求めたいと思います。

では、今回の5件の抽出理由につきまして、佐藤委員から簡単に説明をお願いいたします。

【委員】

1件目の蛸塚益生線道路整備工事（橋梁上部工）ですけれども、これにつきましては発注金額が2億2,000万と非常に高額であることと、それともう一点、低入札価格調査試行案件でございます。私自身の勉強不足かも知れませんが、この評価値が一番高かった317点の業者が判断基準で失格となっております。その判断基準についてもう少し詳しくご説明をいただければと思います。

次に、2点目ですが、市道桑部15号線道路修繕工事でございますけれども、これにつきましては16者応札がありまして、最低制限価格の249万円で13者が同額ということでございましたので、この辺についてちょっとご説明いただけることがあればと思いましたので抽出させていただきました。

次に、3件目の正和中学校トイレ改修工事でございますが、これにつきましては8者中6者が失格ということで、失格者が非常に多かったということで、これにつきましてもご説明いただきたいというのと、落札率が90%を超えておりますので、ちょっとほかの案件に比べて率としては高いのかなということで、この辺についてご説明をいただければというふうに思います。

次に、（仮称）陽だまりの丘複合施設建設（建築）工事ですが、これにつきましては、これも2億円を超える案件でございます。事後審査型の条件付一般競争入札ということと、それから、低入札価格調査制度の試行案件のため抽出をさせていただきました。

次に、最後はコンサルで、桑名市役所本庁舎耐震補強事業監理委託でございますけれども、これにつきましては、落札率についてはこれも90%を超えておりますし、それから、辞退者が14者中8者と

いうことで、辞退される方が多かった理由についてもご説明いただければと思って抽出させていただきました。

以上でございます。

#### 【委員長】

ありがとうございます。

それでは、事務局から提出案件につきましてご説明いただき、各委員よりご質問、ご意見等を頂戴いたしたいと思います。

審議にあたっては、参加資格条件やその設定方法などを主な審議対象といたします。

それでは、第1案件、蛸塚益生線道路整備工事（橋梁上部工）について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、事務局からご説明させていただきます。

前回の監視委員会の中で、低入札価格調査制度を今年の6月1日から試行導入することを報告させていただきました。今回の委員会におきましては、抽出事案5件のうち2件がこの低入札価格調査制度の試行案件ということでもありますので、抽出事案1の説明に入る前に、もう一度簡単に制度の概要についてご説明させていただきたいと思います。

手元資料の最後に添付いたしました参考資料にてご説明させていただきたいと思います。

まず、低入札価格調査制度でございますが、どのような制度かといいますと、従来の最低制限価格制度における最低制限価格を調査基準価格とし、この調査基準価格を下回る入札が行われた場合には、落札候補者の決定を一旦保留し、当該入札価格によっては契約の内容に適合した履行がなされるか否かについて必要な調査を実施し、その調査結果に基づいて落札候補者を決定する制度でございます。

なお、本市の場合、調査基準価格以外に見積内訳等の判断基準及び失格基準価格を運用面で追加しています。見積内訳等の判断基準といいますのは、簡単に申し上げますと、事業者の積算が適正かどうか、そのあたりを確認するもので、市の積算価格と事業者の積算価格があまりにもかけ離れていた場合は失格とする判断基準です。

また、失格基準価格につきましては、調査基準価格を下回る場合であって、契約の内容に適合した履行がなされないと判断する価格でございます。従いまして、失格基準価格を下回った場合は失格となります。

導入時期につきましては、先ほどご説明させていただきましたように、今年の6月1日以降の公告から適用とさせていただきます。

その下にフロー図を付けてございます。まず、入札を執行いたしまして、その次に価格、または価格その他の条件が本市にとって最も有利な者の入札価格が調査基準価格を下回っていないかというところに着目します。

価格競争の場合ですと、価格が調査基準価格を下回っていないかということになります。また、総合評価の場合は、評価値の最も高かった者の入札価格が調査基準価格を下回っていないか、というところに着目することとなります。

調査基準価格を下回っていないということであれば、落札候補者の決定となります。調査基準価格を下回っているということであれば、次に失格基準価格を下回っていないかを確認します。失格基準価格を下回っていれば失格となります。失格基準価格を下回っていなければ、次に見積内訳等の判断基準を満たしているかの確認を行います。

見積内訳等の判断基準は先ほど簡単に説明させていただきましたが、応札者の積算が市の積算とあまりにもかけ離れた積算になっていないかどうか。乖離が大きい場合は、工事の品質に影響を及ぼすことが考えられますので、その時点で失格にするというものでございます。見積内訳等の判断基準を満たしていた場合には、低入札価格調査及び意見聴取を実施することになります。

この調査及び意見聴取の結果を最終的に入札参加資格審査会に諮りまして、審査の結果、契約の内容

に適合した履行が可能と判断されれば落札候補者の決定となります。また、不可能と判断された場合は失格とする、という制度でございます。

以上でございますが、低入札価格調査制度の簡単な説明とさせていただきます。

それでは、本題の抽出事案の1番目についてご説明させていただきます。

資料は6ページでございます。

発注方式は総合評価落札方式、なお低入札価格調査制度の試行案件としています。工事概要につきましては、橋梁上部工、径間長が144メートル等となっています。

入札執行日につきましては平成24年7月20日、入札参加資格でございますが、特定の土木工事業許可を有する者、また、経審点数でございますが、プレストコンクリートの経審点数が市内業者で780点以上、市内業者以外は1,100点以上としてございます。技術者の配置でございますが、現場代理人及び監理技術者を専任で配置することとしてございます。なお、米印の2つ目に書いてございますように、低入札価格で契約を締結する場合は、現場代理人及び監理技術者のほかに監理技術者に求める資格を有する者を専任の担当技術者として1名追加配置することとしています。工事実績につきましては、道路橋でプレストコンクリート橋上部工工事の実績を有する者としてございます。

入札参加者でございますが、技術提案書の提出があったのは6者でした。

契約金額は税抜き1億7,740万円でございます。

最後に、入札の経緯及び結果でございますが、6者から技術提案書が提出され、全者が入札に参加しました。最も評価値の高かった川田建設株式会社の入札価格が調査基準価格を下回っていたため、見積内訳書の確認を実施いたしました。その結果、判断基準を満たしていないことから失格としました。次順位の株式会社安部日鋼工業についても同様の理由で失格としています。

3番目に評価値の高かった極東興和株式会社の入札価格も調査基準価格を下回っていたため、前2者と同様に見積内訳書の確認を実施しましたところ、判断基準を満たしていたことから、引き続き低入札価格調査を実施いたしました。その結果、契約の内容に適合した履行が可能と判断されたことから、当該業者を落札候補者とし、その後、入札参加資格に係る事後審査を行いました。事後審査の結果、適格であったため当該業者を落札者と決定いたしました。なお、失格基準価格を下回る応札はありませんでした。

以上でございます。よろしく申し上げます。

#### 【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。低入札価格調査制度につきましてでも結構ですし、この本件につきましてでも結構です。

#### 【事務局】

補足ですが、佐藤委員から見積内訳等の判断基準についてのご説明をということですので、もう少し詳しく話させていただきますと、工事の内訳に直接工事費ですとか、共通仮設費とかあるんですけども、例えば市が行った積算の70%以内に収まっているかどうか、それ以上離れていないか、そのあたりを費目ごとに確認するものと、あと主なものは、低入札価格で契約する場合は工事品質の確保が重要となりますので、担当の技術者をもう一人専任で追加配置していただくこととなりますが、その技術者の追加配置が可能かどうか。そのあたりを確認するものが見積内訳等の判断基準というものでございます。

ちなみに、今回の案件ですと、評価点の一番高かった川田建設株式会社につきましては、共通仮設費が市の積算の70%以下であったため失格。また、安部日鋼工業につきましては、現場管理費が市の積算の60%を下回っていたため失格としたものでございます。

以上でございます。

#### 【委員】

この入札経過表だけ見ると、落札された極東興和は1億7,700万円。また、評価点の一番高いところは1億4,700万円で、端的に言えば3,000万ぐらい安いわけですけども、これでは市が求

める工事の品質を確保できないだろうということで失格したということでよろしいですか。

【事務局】

そうですね。市の積算と離れていたんで、工事品質が確保されないと判断したということです。

【委 員】

わかりました。

【委員長】

ほかにはいかがでしょうか。

今のご質問の例えば70%以内かどうかという、そういう判断基準はほかの自治体とか、一般的な基準というか、それに比べてどうでしょう。

【事務局】

桑名市では、基本的には三重県の制度を参考にしています。また、四日市市もこのような判断基準を設けています。

【委員長】

ほかにはどうでしょうか。

【委 員】

今のこの見積内訳等の判断基準のところのお話ですが、今、例えば川田建設の場合は共通仮設費が低かったと。それから、安部日鋼工業の場合は現場管理費が低かったと。ほかにはどういった項目がありますか。

【事務局】

工種によって異なりますが、土木工事の場合は、直接工事費であれば75%、共通仮設費は70%、現場管理費は60%、一般管理費は30%と設定しています。

【委 員】

土木工事の場合は、その4項目の内訳をチェックするということですか。

【事務局】

そのとおりです。川田建設の場合は共通仮設費のみが離れていたということです。

【委員長】

よろしいでしょうか。

【委 員】

見積内訳等の判断基準のパーセンテージは、業者さんはわかっているのですか。公表はされているのですか。

【事務局】

はい。これについては、桑名市低入札価格調査試行要綱の中に規定していて、市のホームページにも掲載しています。

【委 員】

わかりました。

【委員長】

ほかにはいかがでしょうか。

【委 員】

特になし。

【委員長】

それでは、この案件につきましては、特に問題なしということでよろしいでしょうか。

あとは、今検討してきた低入札価格調査制度につきましては、まだ試行導入されて間もないということですので、今後もより良い制度に向かって検討を重ねてください。

【事務局】

はい。今後も試行を重ね、見直す点があれば見直しも考えていきたいと思います。

## 抽出事案2 市道桑部15号線道路修繕工事

### 【委員長】

それでは、次に第2案件、市道桑部15号線道路修繕工事につきまして、事務局のほうから説明をお願いいたします。

### 【事務局】

それでは、資料の9ページをご覧ください。

工事名は、市道桑部15号線道路修繕工事でございます。

発注方式は、事後審査型条件付一般競争入札としてございます。工事の概要は、ボックスカルバート工18メートル、L型側溝工10.5メートル、舗装工95平米となっています。

入札執行日は平成24年6月22日、入札参加資格は土木工事業の許可業者で、次の要件を満たす者としてございます。経審点数は、土木で市内業者739点以下、一般許可業者の場合は740点以上も可としてございます。完成工事高につきましては、予定価格の2分の1以上であることと規定してございます。技術者の配置でございますが、現場代理人及び主任技術者を配置すること。工事実績につきましては、平成14年度以降、官公庁元請で土木一式工事の実績を有することとしてございます。

入札参加者は16者、また契約金額は税抜き249万円です。

入札の経緯及び結果でございますが、16者が応札し、開札の結果、1者が最低制限価格を下回ったため失格、13者が同額となったため、くじ引きにより株式会社佐藤組を落札候補者としてしました。その後、入札参加資格の事後審査を行った結果、適格であったため同業者を落札者としたものです。

事務局からは以上でございます。

### 【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

### 【委員】

参加されたところのほとんどがいわゆる最低制限価格と同額で、落札率は79.52%で、ほぼ予定価格の8掛けで並んだのかなという気はするのですが、この道路関係の工事はこういう事例が何か多いような気がします。前にもお話がありましたが、土木工事は最低制限価格がはじきやすい。だから、ニアリーになるとということだと思うのですが、そのあたりの話を聞かせていただきたい。

### 【事務局】

土木工事は歩掛かり、単価等が比較的明確であり業者さんも知ってみえます。また、情報公開においても類似案件の請求がたくさん出ていますので、一般的な土木工事であれば容易に算出することは可能と考えています。他に担当課さんはどうでしょう。

### 【担当課】

先ほど事務局から説明があったとおり、今回の案件は一般的な工法ですので、情報公開制度の活用や積算ソフトの活用などから、最低制限価格の算定は安易にできるのかとは考えております。

### 【委員長】

ほかにはいかがですかね。

### 【委員】

この案件は、いわゆる入札のときに談合とか、そういったことがあってという話ではなくて、仕事の欲しい業者が多い中で、比較的簡単に積算ができ、一般的な土木工事であるので、多くの業者さんが入札に参加したということですね。その中で最低制限価格が推測でき、結果的にくじ引きになっていますから、入札という行為そのものに不正があったということにはならないと思いますが、ただ制度としては、ほんとうの競争なのかということを考えてみるとどうなのかなと思います。

予定価格にしても、最低制限価格にしてもいろいろと規制のある中で、ここが妥当ということでやっていたいただいているのとは思いますが、それはあくまでも役所とか市としての立場であって、例えばこれ

が民間であれば、最低制限価格の置きどころというのはもう少し柔軟に対応しているのではないかなと思います。何かここには正当な競争はないのかなというような気がするのですが、いかがでしょうか。

【委員長】

どうでしょう。

【事務局】

公共工事と民間工事の一番大きな違いは工事品質の確保だと思います。当然、民間工事においても工事品質の確保というのは重要なことですが、公共工事の場合は、最終的に市民の財産になって参りますので、そういう意味で特に工事品質の確保が重要と考えています。このようなことから最低制限価格制度は必要と考えています。この場合、どこかに基準を設ける必要があるので、各自治体はいろいろと試行錯誤しながら基準を設けているところです。また、この最低制限価格制度の課題に対応するため、総合評価落札方式、低入札価格調査制度などの様々な制度を構築し試行的に運用しているところです。

なお、本市では、変動型の最低制限価格制度を運用していて、この制度においても、くじ引きによる落札候補者の決定はありますが、先ほども言いましたように、必要な制度に沿った対応であり、適正な入札執行と考えています。

【事務局】

先ほど事務局からお話がありました変動型の最低制限価格制度については、今年度中に見直しも含め検討を行わせていただきたいと思います。

それと、低入札価格調査制度につきましても、これも試行案件ですが、結構事務的にも手間がかかるということで、現在は大きな金額の案件しか対象としていませんが、これにつきましても試行の中で範囲を広げていくというようなことも検討して参りたいと思っておりますので、そのあたりについての解決策の1つになるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ほかにはいかがでしょう。

【委員】

特になし。

【委員長】

それでは、この件につきましては特に問題なしということで。また、先ほどの案件もそうですが、制度というのはいい方向を向いて検討し続けるということが重要ですので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

### 抽出事案3 正和中学校トイレ改修工事

【委員長】

それでは、次に第3案件、正和中学校トイレ改修工事につきまして事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、抽出事案の3番目でございますが、資料のほうは13ページになります。

工事名は正和中学校トイレ改修工事、発注方式は事後審査型条件付の一般競争入札としています。工事の概要でございますが、トイレ改修工事、多目的トイレ増設等となっております。

入札執行日は24年6月22日、入札参加資格でございますが、建築工事業の許可業者で、次の要件を満たす者としております。建築の経審点数が市内業者570点以上、完工高といたしましては予定価格の2分の1以上としております。技術者の配置でございますが、現場代理人及び主任技術者を配置することとしております。工事实績は、平成14年度以降、官公庁元請で建築一式工事の実績を有することとしてございます。

入札参加業者につきましては8者、契約金額は税抜き3,890万円でございます。

入札の経緯及び結果でございますが、8者が応札し、6者が最低制限価格を下回ったため失格、有効



な札のうち最も低価格でありました霞興業有限会社を落札候補者とし、事後審査の結果、適格であったため同社を落札者と決定しております。

以上でございます。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等はございませんでしょうか。

【委 員】

応札された8者のうち6者が最低制限価格を下回って失格になったわけですが、失格になった1番低価格の3,587万6,000円については予定価格の84.5%ぐらいですね。最低制限価格は84.82%と、0.3%ぐらいの差ですが、このあたりも先ほどと同じで、最低制限価格を僅かに下回ったことでほとんどの応札者を失格にしてしまうということになると、いわゆる競争の原理ってどうなのという気がします。今おっしゃられたように、最低制限価格を変動型にしたことから漏洩等の不正行為に対して効果があるのはわかりますが、もう少し何かいい方法がないのかなという気がします。

【事務局】

本市では公契連モデルを導入したのが平成21年の4月で、導入から約3年が経過し、業者間に浸透しつつあると言えます。また、業者の積算能力が向上していることで、現在は最低制限価格に近い金額での応札が殆どとなっています。このことから僅かな金額で失格となるケースも見受けられます。

先ほど佐藤委員から話がありましたように、このように失格が多くては、競争の原理はどうかという点ですが、その辺も踏まえて、今後は低入札価格調査制度の試行も重ねることで、そのような課題に取り組んで参りたいと考えています。

【委員長】

他にはよろしいですか。

【委 員】

今、佐藤委員のおっしゃったことでもあり、先ほどの案件もそうですが、いわゆる最低制限価格ぎりぎりとか、あるいは少し割ったところで、これだけの数の業者が並ぶということは、もちろん欲しい仕事ではあると思うのですが、世間の相場的にそれくらいの金額で十分やっていける仕事だというふうに業者さん側では考えているのではないかなと思います。これは私の個人的な意見ですが。

そうした場合にはそもそも契約価格自体が高めなのか、あるいは最低制限価格の設定自体が低いのかどうなのでしょう。

また、これは何か国のほうの施策で昔あったような気はしますが、あまり最低制限価格を低く設定し過ぎると、業者が過当競争になって下請に対して苦しいことを言ったりするという問題もあって、引上げという話があったように思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

【事務局】

中央公契連モデルといいますのは、国が中心になって策定したモデル式で、毎年、市場価格等を踏まえて見直し等の検討がなされています。本市では平成20年度のモデル式を運用していますが、委員がおっしゃるように、その後、平成21年度と23年度に2回の引上げが実施されています。

引上げは、現場管理費への乗率を見直したもので、平成20年は0.6だったものを、平成21年度には0.7、更に平成23年度には0.8に引上げられています。この2回の引上げで最低制限価格は4%ほど引き上げられたということになります。

いずれにしても、先ほど言いましたように、中央公契連モデルは市場価格を踏まえて策定されていることから、工事品質を確保するうえで、妥当な最低制限価格の算出式と考えています。

【委 員】

最低制限価格の設定方法が妥当とすると、予定価格の方はいかがですか。

【担当課】

設計書は標準の歩掛かり等がありまして、その歩掛かりを利用して数量と価格を入れることで作成しています。桑名市の場合は建設物価という公表された価格とか、業者からの見積もりを使用して価格を

入れさせていただいています。

あとは県とか国の関係ですと、市場価格関係を調査した単価関係というものを持ってみえまして、そういうものも利用されている場合があります。従いまして、市の設計価格が市場と相違したものではないと考えています。

【委 員】

ありがとうございます。

【委員長】

他にはいかがでしょうか。

【委 員】

特になし。

【委員長】

それでは、この案件につきましては、特に問題ないということで。ただ、価格の設定とその実態の問題は、これは常に検討して調整し続けなくてはいけない問題ですので、今後も検討等よろしくお願ひしたいと思います。

#### **抽出事案4 （仮称）陽だまりの丘複合施設建設（建築）工事**

【委員長】

次に第4案件です。仮称ですが、陽だまりの丘複合施設建設（建築）工事について説明をお願いします。

【事務局】

それでは、資料の16ページをご覧ください。

工事名は（仮称）陽だまりの丘複合施設建設（建築）工事でございます。発注方式は、事後審査型条件付一般競争入札で、低入札価格調査制度の試行案件としています。工事の概要は、総合仮設工事、建築工事、外溝となっております。

入札執行日は、平成24年7月27日、入札参加資格は、建築工事業の許可業者で次の要件を満たす者としております。建築の経審点数が市内業者は730点以上、準市内業者が900点以上としています。完成工事高は予定価格の2分の1以上、また、技術者の配置につきましては、現場代理人及び建築の監理技術者を専任配置することとしております。なお、この案件も先ほどの案件と同様に、低入札価格で契約を締結する場合は、担当の技術者を1名追加配置することとしております。工事实績につきましては、平成14年度以降、官公庁元請で建築一式工事の実績を有することとしております。

入札参加は4者でございました。

契約金額は税抜き2億1,480万円でございます。

入札の経緯及び結果でございますが、4者が応札し、最低価格であった株式会社大橋組の入札価格が調査基準価格を下回っていたため、見積内訳等の確認を実施いたしました。その結果、判断基準を満たしていたことから、引き続き、低入札価格調査及び意見聴取を実施いたしました。調査の結果、契約の内容に適合した履行が可能と判断されたことから落札候補者とし、その後、入札参加資格に係る事後審査を行いました。事後審査の結果、適格であったため、当該業者を落札者と決定しています。

なお、この案件につきましても、失格基準価格を下回る入札はございませんでした。

以上でございます。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんか。

【委 員】

調査基準価格を下回れば、その価格の内容についての調査を実施するすわけですので、失格基準価格というのはその価格を切っていれば、調査するまでもなく工事品質が確保されないから、だめだよとい

うことだと思います。そういう意味で、失格基準価格は従来の最低制限価格とほぼ同じものと考えていいのでしょうか。

それと、調査基準価格というのは、このあたりでないと市が求める工事の品質を確保できないであろう。それから下は業者の営業努力なりで多少は見ましようという部分の線引きだと思うのですが、そのあたりのところは二重に基準があるような気がするのですが、いかがでしょう。

【事務局】

最低制限価格制度の場合、基準になる価格を少しでも下回れば失格になります。これは基準があるために失格になるだけであって、実際、きちんとした工事ができないのかというと、会社によってはそうではないと思います。このようなことから、基準になる価格を下回った場合でも、即失格とせず、調査を実施することによって、工事の品質が確保できるものであれば、落札候補者にしようというのが低入札価格調査制度の趣旨と考えています。この場合、従来の最低制限価格が調査基準価格になるわけですので、このラインが工事品質を確保するための基準になるものと考えます。

また、失格基準価格については、土木工事の場合、最低制限価格の範囲の下限である予定価格の3分の2付近になりますが、この予定価格の3分の2を下回るということであれば、調査を実施しても工事品質の確保はもはや期待できないという価格と考えています。これも難しいところで、実際、失格基準価格を設けていない自治体もありますが、いずれにしても、現在は試行ということでもありますし、桑名市といたしましては、先ほど話をしましたように、本制度の先進地である三重県、四日市市を参考にスタートを切りましたので、そのあたりのことについてまた今後の検討課題ではあると考えています。

【委員長】

先ほど判断基準について周りの自治体との比較をお伺いしたわけですが、どうですか、周りの自治体では。

【事務局】

見積内訳等の判断基準の運用については、全国的に増加しつつあると思います。例えば、三重県と四日市市では現場管理費は70%以上となっています。桑名市の場合は60%以上であり、若干の違いはありますが、これは中央公契連モデルの運用モデルの違いと考えております。

また、本市の場合、低入札価格調査制度の試行案件としていますのは、総合評価落札方式による案件及び設計金額が1億円以上の案件としています。四日市市は金額設定なしで、総合評価の案件に限って本制度を運用しています。また、三重県につきましては、設計金額5,000万円以上の建設工事、建築工事の場合は1億円以上としております。更に、設計金額5,000万円未満の建設工事制度の適用が必要と認められるものとしています。

【委員】

わかりました。

【委員長】

他にはございませんか。

【委員】

特になし。

【委員長】

それでは、この案件につきましては問題なしということにしたいと思います。

## **抽出事案5 桑名市役所本庁舎耐震補強事業監理委託**

【委員長】

続きまして最後の案件ですが、桑名市役所本庁舎耐震補強事業監理委託について説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

資料は19ページでございます。最後の案件でございますが、業務名は桑名市役所本庁舎耐震補強事業監理委託でございます。入札方式は指名競争入札としております。業務の概要は、桑名市役所本庁舎の耐震補強事業の監理委託でございます。

入札執行日は24年7月24日、技術者の配置でございますが、1級建築士の監理技術者を配置することとしております。指名業者数は14者、全て県外業者でございます。契約金額は税抜き2,200万円でございます。

また、指名業者の選定方法でございますが、本業務は庁舎免震工事監理業務であり、高い技術力を要することから1級建築士が100名以上所属し、延べ面積5,000平米以上の官公署建築物の免震工事の設計または監理業務の実績を有する者としています。

入札の経緯でございますが、8者が辞退、最も低い金額で入札した株式会社大建設計名古屋事務所を落札者と決定してございます。なお、この案件につきましては、当初、一般競争入札で執行したのですが、1者の応札もなかったことから指名競争入札に切りかえたものでございます。

以上です。よろしくお願いします。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

【委員】

最初のときに応札者がなかったので、指名競争に切り変えたということですが、14者のうち8者が辞退をされたということは、もう手いっぱい何かそういう仕事ができないとか、何かそういう理由があったのでしょうか。

【事務局】

まず、一般から指名競争入札に切りかえた理由ですが、地域要件につきましては特殊案件ですので当初から県外までとしていたのですが、昨年、競争性が確保できたため、発注基準をそれまでの県外業者から県内業者に変更した経緯があります。このことから、恐らく、県外業者は桑名市の入札には参加できないと考えていたところも多分にあったのかなと考えています。

結果的に、1者の応札もなかったことから、一般競争入札時の入札資格要件を満たす県外業者14者を指名した入札を行いました。

なお、辞退が8者出たことにつきましては、担当課のほうから答えさせていただきます。

【担当課】

建築住宅課です。

今回の業務委託の方法は、通常の工事監理業務のほかに実施設計の段階で打ち合わせ等に参加していただいて意見の具申、それと設計の完了時に成果品の詳細なチェック等も通常業務のほかに含まれております。それと併せて、居ながらの工事施工ということで、普通の改修工事よりも工期が長くなつてきますので、委託期間も長くなり、経費等も膨らんでくるというようなことも、落札率が高くなったことと併せて、辞退者数が多くなったと考えられます。

また、日本を代表する大手のコンサルタントを指名したということで、他の事業者で設計された物件の工事監理だけを委託業務として請け負うのは意欲がないというか、自分のところで独自設計したものを自分のものとして委託を受けたいと考えたのではないかと思います。今回の場合は、工事の監理委託のみということで、そのあたりについて、大手さんとしては少し魅力がなかったのかなというふうに考えられます。

【委員長】

いかがでしょうか。

【委員】

4者が予定価格と全く同額になった何か事情とか理由というのはあるのでしょうか。

【担当課】

先ほど言いましたように、委託期間が相当長くなります。私どもは、委託費のほうは、国交省監修の積算基準をもとに積算はしていますが、どうしても積算した中で、企業としては設計金額と同額じゃないとできないと判断されるところもあるのではないかと思います。また、積算については、きちんとした監修のもとに行っていますので、単価等については間違いないと思っております。

【委員長】

選定の考え方で1級建築士を100名以上所属しているということですけど、これは、一般的な設定方法なのでしょうか。

【担当課】

今回の場合、免震、居ながらという条件で補強を進めていく必要があります。免震、居ながら工事というのはなかなか難しいところがあり、業者として経験等も含めると、大手でないと監理をしていただくのは困難と判断し、そのような条件設定をしたものです。

【委員】

これは監理委託の1つとして入札案件になっていますが、本体の免震工事そのものの施工はまた別途に発注しているのですね。

【担当課】

そうです。今も実際に工事はデザインビルド、設計施工という形で施工されています。

また、設計施工ですので、先ほどもお話ししたように、設計の中で免震工事というのは難しいところがありますので、その中で打ち合わせ等にも参加してほしいということです。

成果品についても設計施工であれば業者に任せることになるチェックも必要になってきますし、価格的なことも審査する必要があります。このことから、施工監理、そして成果品のチェック、また実施設計の段階でお知恵をかりるという形で今回委託業務を発注したものです。

また、先ほども言いましたように委託期間も大分長くなりますので、価格的なところで企業さんとしてはなかなか難しかったのかなと判断しています。

【委員】

それは、工事の施工状況をチェックする意味合いがあるから、あえて別業者が良いということでやられているわけですね。わかりました。ありがとうございます。

【委員長】

最近、この耐震補強工事というのは増えてきていると思いますが、設計と監理を別々に分けるというのは、一般的なことなのでしょうか。

【担当課】

そうですね。小さな物件であれば、設計したところが監理をするという流れで進めていますが、工事金額も大きくなって、設計費も大きくなると、監理委託費も大きな金額になってきます。それと、違う目で見ていただくのも良いところがあるということで、県・国からは第三者監理の推進を指導されています。ただ、それを推進するにあたっては、設計の段階から監理業務に伴う意思伝達業務、内容を確認してもらう経費ですが、それが余分にかかってきますので、全て第三者監理にしていくというのは難しいかなと思います。

第三者監理が良いのかどうかという話ですが、同一会社の場合は、業務を確認してもらう段階で、設計したところについてはその内容を熟知しておりますので、スムーズに進むところがありますが、第三者監理になると、その内容の意思伝達業務に相当な経費を計上する必要が生じてきます。このようなことから、全ての物件ではないですが、今回は大きな物件だったということで第三者監理で発注したところですよ。

【委員長】

他にはどうでしょうか。

【委 員】

特になし。

【委員長】

それでは、この案件につきましても特に問題なしということで。他に全体につきましてご意見等はございませんでしょうか。

【委 員】

特になし。

【委員長】

それでは、以上をもちまして抽出事案の審議については終了いたしたいと思います。

次回の審議案件の抽出につきましては、今回佐藤委員に抽出していただきましたので、次は名簿の順番で5番目の、藤田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

### (3) その他

【委員長】

事項書（3）のその他について、事務局のほうから何かございますか。

【事務局】

特にございません。

【委員長】

それでは、これで平成24年度第2回桑名市入札監視委員会を終了させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。